

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300609		
法人名	ひだまり荘 株式会社		
事業所名	ひだまり荘		
所在地	大分県由布市庄内町高岡491		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	平成22年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472300609&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府宮番館1F		
訪問調査日	2010/3/30		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かで美味しい空気を吸える環境が一番のアピールポイントです。
職員は元気が良く、毎日入居者へ元気パワーを送っています!!
(グループホームミニバレー大会では、3回連続優勝しています ^v^)
暖かい月は、月に1~2回、34人乗りの大型バスで外出し、買い物や観光に出かけています。
保育園児や小中高校生や地域の方と交流をしており、「ひだまり荘」への理解が徐々に広まっています。
地域の方に暖かく見守られて、毎日のんびり楽しく生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の自然に育まれた、のどかな田園地帯に在る木造2ユニット平屋造りの施設です。採光注ぐテラスやテントの設置が可能なひだまりの庭は、住民と触れ合えるお茶のみの場として、顔見知りの関係づくりに取り組んでいます。バスドライブや外食などの気分転換を図りながら、利用者と共に過ごす毎日を職員も楽しむ中で、一人ひとりの思いを大切に捉え、暖かい心の通い合う支援に動んでいます。また、バスドライブでは、住民参加のイベントも企画されています。職員間の協調性「和」の大切さを熟知しており、マナー(足音や歩き方等)の周知やスキスアップ、レクレーションにも取り組んでいます。献立は「見た目から美味しく」を徹底事項とし、利用者と栽培した野菜が彩りよく盛り付けられるなど、食事の期待や楽しい雰囲気づくりに努めています。居室の壁面は、多数の写真やアイデアの豊かな名札で飾られ、身体の健康と精神の安らぎの助長に取り組んでいる様子は何えます。独自の空気清浄機を設置するなど、健全な生活の保持に努める中で、利用者や家族の意向を尊重した安全で安心な支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の冒頭の「地域の中で信頼され・・・」は、開設して7年たった今、確実に友好関係が築けているように感じています。	利用者一人ひとりの個性を大切に、寄り添いながら、地域の中での暮らしを営む家(ホーム)の一人として、利用者の喜びを共有できる関係づくりと、生活のお手伝い(支援)の実践に向け、全職員で取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が散歩の途中に寄って、話しながらお茶を飲んだり、学校行事やひだまり荘の行事に参加し合い、子供から高齢者まで地域と仲良く交流している。	小学校行事への参加が恒例となり、相互の交流関係を築いています。ホーム行事(夏祭り・交流会等)を通して意欲的な地域間交流に励んでいます。ご近所付き合いを大切にすることで、お茶飲み場としての馴染みの関係づくりにも努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個人的にも相談に応じています。民生委員さんや区長、班長さん等代表者への情報提供はこなっています。また、九重吊橋や昭和の町への旅行を計画し、地域の方と交流し車内で認知症への理解について話し合いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告、研修報告、第三者評価の結果などをサービス向上の為、話し合いを行っている。	「地域のなかで信頼を受けるホーム」として、地域に根付いた親しみのある相互関係づくりやグループホームとしての役割、今後の取り組みについて、推進委員会の方々の協力の中で、意見が交わされています。	地域包括センター職員の参加も検討される中で、利用者と共に地域で暮らすホームの在り方や支援への向上に向け、意欲的に取り組まれている姿勢に、より一層の発展を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者へサービス内容の提供を行い、市町村からの情報提供も頂き、協力関係は築けてきている。	推進委員会への参加と、情報を発信する提供者として、相互関係が築かれています。	担当者による積極的な訪問活動を通し、立場の相違から受けるホームのニーズや地域における役割など、気付きの伝達により、相互関係を深めて行く中で、更なる質の向上に繋がると期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解は、代表者を始め職員全員理解しており、身体的にも精神的にも拘束をしていません。自分がされて嫌な事は人にしない様にしています。	内部研修などで全職員の周知が図られており、一人ひとりの身心の拘束を排除するケアを実践に繋げています。職員間の協力体制の中で、職員相互の気づきの大切さを理解しており、利用者に親身に寄り添う支援体制が整っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どういったことが虐待になるのかを研修し、身体的虐待には入浴時に傷やアザがないかチェックし、精神的虐待は日頃の様子と違いがないか注意深く観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	大まかな知識は勉強しているが、詳しい事は専門機関へ直接問い合わせる様支援している。費用が高くて断念された方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一日の流れ、料金、体調管理、持ってくる物、どういう時に退居になるのか、不明な点を説明している。また、不明な点はいつでもご相談下さいと伝えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で利用者や家族が意見や疑問、質問、報告など想いを述べられております。代表者及び職員は運営理念の「利用者第一」を常に心に置き運営させて頂いております。	家族状況の把握に努める中で、家族会等を通して家族とのコミュニケーションをポイントとし、相互の協力体制づくりに励んでいます。利用者一人ひとりの思いや希望・家族の意見や要望を尊重した支援の実践に向け取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者、職員が一つの目標に進んでおり、意見や提案がしやすい環境である。職員同士が定期的にお酒を飲みながら打ち解けて話せる場(国内外旅行、食事会)を提供し、より良い施設作りをしようと話しています。	協調的で友好的な職員関係のもと、「運営理念」を念頭に据え、利用者一人ひとりの利用者本位の支援に向け、全職員が一丸となり積極的に活発に取り組んでいます。職員同士の絆づくりの一環として、レクリエーションも取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭環境や体調などにより、極力負担のない条件で働いてもらっている。各研修や資格取得に向上心を持って取り組んだり、職場環境を整えている。H21介護支援専門員4名中3名合格。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内研修を行っている。 法人外では認知症研修を受けている。 各種機関が開催する研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的開催される小規模ホームの井戸端会議に参加している。また、同業者の職員を交流を目的としたバレーボール大会に参加し、現在3連覇中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族から情報を収集し、職員全員が同じ情報を共有し、本人の要望にスムーズに対応出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に施設を見学していただき、心配な事や困っている事を伺い、不安を理解し今後の生活で不安が解消できるように情報交換(電話や手紙)を行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	食事、排泄、移動、行動障害等いろいろな情報を伺い、地域にある資源やヘルパー、配食サービス、施設利用などの必要な支援をアドバイスしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩と尊敬し、教えてもらえる事は伝授継承し、出来ない事は支援し、お互い支えあいながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居契約の際、入居者を家族と職員で支えあう事を伝え協力していただいている。職員がいくら頑張っても家族にはかなわないので、面会や誕生会で家族の絆をより強いものにしていただけるようお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれた家に皆で遊びに行ったり、昔の友達に会いに行ったり、来てもらったりしています。	一人ひとりの思いに気付き・寄り添う気持ちの大切さを、個々の職員が共通の意識として周知する中で、利用者や家族と共に馴染みの関係継続に努めるなど、積極的な支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	元気な時から一緒に生活してきた入居者同士なので、体調が悪い時声をかけあって、励ましあったり、一緒に泣いたり、笑ったり、車椅子を押してあげたり、とてもいい関係が築けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅復帰や入院、他施設に入所されている方へは、職員が伺いその後の状態を伺っています。また、困っている事には出来る範囲で協力させていただいています。年賀状や暑中見舞いの交換や亡くなった方の奥様が家で作った野菜や漬物をくださり、退居後も交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用し、本人本意の希望に添えるよう努力している。	生活暦を重視しながら、地域ぐるみで見守る体制作りに取り組んでおり、馴染みの繋がりを大切にしたい支援を日々の営みとして励んでいます。全職員の意見を取り入れ、センター方式を用いる中で、一人ひとりの思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に入居時に伺っている。 これまで利用してきたサービスの経過で、困っていた点、良かった点等伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1回モニタリングとアセスメントをとり、現在の状態の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一月に一回、担当者会議を開き、モニタリングと再アセスメントを行い、介護計画をチームで作成し、チームで決めた事を実践し入居者の改善につながるよう努力している。	一人ひとりの日々の様子や気付き等を職員が共有できる記録書式(メモ)が整えられており、現況を把握する中で、会議で十分な協議が交わされ、計画の実践に繋がっています。利用者や家族の意向が反映された計画の策定に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者会議の記録用紙に今月の様子の欄を設け、気付いた事を気付いた時にかいたり、アイデアを自由にかける様にしており、職員が情報を共有したり、新しい事にチャレンジするのに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き家になっている自宅の郵便物を取りに行ったり、布団干しをしたり、庭の手入れの手伝いをしたり、掃宅願望のある方には自宅まで送迎を行ったり、外出・外泊時のベッド・車椅子・介護車の貸し出し、役所の手続き等その都度、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の役所、包括支援センター、配食サービス、デイサービス、ショートステイ、入所施設、警察、消防、学校、老人クラブなど楽しみや悩み事を話せ充実した暮らしを継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は入居以前にかかりつけ医を継続する形をとっているため、県病、医大、三愛病院、庄内診療所、日野病院、日赤など、それぞれ個々でかかりつけ医が違っている。また緊急時に搬送する病院も決めている。	月に1回の近くの診療所の往診があり、定期的な受診等は利用者ごとのかかりつけ医で行なっており、緊急時でもすぐに対応できるような体制が整っております。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報交換は蜜に行っており、お互いの気付きやアイデア、情報を共有し、入居者にとって最善と思われる方法を医師と相談し、看護を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の精神的レベル低下を防ぐ為、慣れ親しんだ職員が面会に行く事によって、安心される方が多いので、面会に行っている。病院関係者(医師・ソーシャルワーカー)との情報交換を行い、早期退院に向け努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族と十分話し合い重度化した場合の方向性を頭でイメージして頂いている。また、看取りの指針を説明し同意して頂いている。レベル低下に伴い、家族へ随時報告し関係者と共に支援している。	入居時には必ず本人家族の意思を聞いており、事業所の指針を説明して同意をとられるしくみがあります。家族会などで話し合いが持たれ、利用者の状況を段階を追って随時の連絡をされています。又、関係者共、連携が取れているように思われます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応訓練を行っており、実践で行動できるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練(通報訓練、非難訓練、消火訓練)を年2回消防署指導の下行っており、夜間の誘導訓練、通報訓練を毎回違う職員が担当し、全員が通報、誘導できるように訓練している。	避難訓練を年2回行っており、全職員にも周知徹底されています。特に夜間帯の事を今後の課題と認識し取り組まれているようです。又、地域の方とも徐々に交流を持たれており、協力体制を築かれるよう取り組みをされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本の丁寧語に大分弁の混じった言葉で声かけを行っています。親しき仲にも礼儀ありで、なまなまな対応にならないように気を付けています。	以前から呼ばれていた(本人、家族から聞き)一番心地いい呼ばれ方で職員間でも呼んでおられ又、家族の方にも承諾を得ています。職員間で、マナーを守るよう徹底し、利用者第一に考える介護に取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は毎日全員に声をかけ、会話をする中でいつもと違う表情や態度で、本人の心の奥の思いや悩みを伺い、相談にのったり問題を解決したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の生活のリズムを変更すると、昼夜逆転等の問題が発生する可能性があるため、一日の日程はほぼ変更しませんが、お風呂の時間や散歩の時間、起床・就寝時間、食事の時間などは本人のペースや希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本は自分で選んで頂き、職員がアドバイス(寒さ暑さ調節)をする形をとっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を育てる所からスタートし出来る方には、下ごしらえ、盛り付け、下膳、お膳拭きをしていただいています。	野菜などは、近所の方や身内の方からの差し入れがあったりと、交流を図られています。利用者と共に下準備をされ、利用者も生き生きとした表情で取り組まれている様子が伺えます。利用者の嫌いな物も食べて頂く工夫をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表、水分チェック表を用い、必要量摂れていない場合記入し、病気の悪化の早期発見や体調管理に役立っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。中には、生まれてから歯を磨いた事がない方もいて、口腔ケアを進んでしてくれない方もいますが、気長に誘導しうがいから始めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間尿量の多い方、昼間尿量の多い方、排尿感覚が近い方、遠い方、尿意のある方・ない方、それぞれの状態に合わせて対応し、徐々に布パンツに戻す努力している。	排泄チェックを活用し、個々に合わせた対応をされており、自立に向け職員一同心得取り組まれています。最終的には家族の負担軽減にもなる、布パンツにしたいとの強い一念を持たれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力、薬に頼らず、飲食物で快適に排泄できるように支援している。現在、便秘の方はいません。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ペースは決まっていますが、本人の希望や体調、汚れ具合によって必要なタイミングで入浴して頂いています。	曜日は決めているものの個々に合わせた入浴方法をされており、状況、状態に添った対応をされています。利用者の負担を考慮し、職員にて浴槽を改築しリフト浴を可能にしています。入浴後も出口に三面鏡を設置し、ちょっとした心配りが見られます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜見たいテレビのある方は、テレビを見て気分良く休まれています。就寝時間は、これまでの生活習慣の違いで、それぞれ好きな時間に休まれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用を薬剤師から聞いており理解している。また、粒やカプセルの薬が飲み込めない方には粉薬に変更していただいたり、粒をこちらの判断で潰して提供してはいけない事を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りや将棋、ゲートボールなど生活歴を伺い提供してはいるのですが、なかなか気分転換が出来る所までは行っていないような気がします。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそえるよう努力している。 月に1回は戸外にバスハイクに出かけ、本人が行きたい所があれば乗用車で出かけたり、遠い場所や時間のかかる所は家族に連れて行ってもらえるようお願いしています。	自家用のバスにほぼ全員の方と、季節に合った場所等に行かれています。廊下に写真を貼られ様子が伺えます。又、個人の希望にて外出の支援もされているようです。時々外食にて利用者の方とのコミュニケーションも図られています。	個々に添った希望を把握し、外出支援が毎日の日課になるような取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族了承の下、全員3000円程度持っています。外へ買い物へ行けない方は、施設内に売店を設置し、歯磨き粉やお菓子など自分で購入できるようにもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っていらっしゃる方もいます。電話をかけたり、手紙を書きたい希望があれば、必要なお手伝いをしています。個人のレベルに応じたサポートをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な空間(音・光・温度・湿度・匂い)がないよう努力しているつもりですが、第三者がみてどう感じているのかは分かりません。日向ぼっこのできるテラスを作り憩いの場となっている。	玄関には信仰心の厚い方の為にお地藏様を飾られたり、共有スペースも天井が高く、日光が良く当たり、ゆったりくつろげる配慮がされています。その人らしい生活が出来るようにと、職員で取り組まれている様子が伺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ自分の好きな場所、自分だけの場所を持っていて、自由に過ごしています。仲のいい入居者同士、会話をしたりテレビをみたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の状態により、使い慣れた物が使いやすい様に配置したり、動きやすい導線を確認したりしている。	居室の中も、個々に合わせ使い慣れた家具等を持ち込まれ又、居室の床に畳を敷き布団にて寝起きをされている方もおられ、今までの生活習慣への配慮がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり、スロープ、浴槽リフトなど必要な環境を整え、事故のない様にしています。極力、自立した生活が送れるようにし、出来ない所はお手伝いさせて頂いています。		